

# 「家がいいね」 第176号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019.1.7

カルテからのつぶやき 6

そういえば最近お見かけしていないという方も電子カルテでは簡単に拾い出すことができます。記憶が乏しい方も保存されていますので過去2年を引き出し見直してみると、300名弱が途切れただけです。思うことが色々あります。

午後の方は毎月お伺いするので、途切れたままの方は73名。入院入所された方が13名。他界された方が60名（うち入院直後が20名）。思い出しつつ、「ご冥福をお祈りいたします。」

午前中の外来中断の方が、220名です。その中に平成生まれが38名もおられます。若者の悩みが一過性であれば幸いです。「便り無いのは、良い便り」と考え、次を待つしかないと思います。「久しぶりに来た。まあ今はこんな風にやっています」という風に、現状報告ならびに息継ぎのような再診は嬉しいものです。来られない場合も待っていますよ、という気持ちをお伝えします。

2月10日午後、ホームホスピス見学会

まもなく始まりから2年。「あこや」の活動説明が聞ける、見学会を開催します。主催は、みえ生と死を考える市民の会。

冬の虹です

榊原は冬雲の下でした。正月の温泉の帰り道です。時雨に追いかけられた際、反対側に陽射しが虹の橋を贈ってくれました。

休診日のお知らせ

2月1日午後から3日まで、研究会で出張。  
2月2日（土）休診です。



注連飾りを揃えつつ、新しい年を迎えるのは喜びも、ひとしおです。「笑門」の札が選び始めでしたが、元々の経緯を知り「蘇民将来」も飾るようにしました。貧しくとも旅人へのお接待の気持ちを忘れないことが大切だと、古来の寓話は示します。土着の人が新参者を受け入れるのは難しい課題ですね。隣人とはそのような人なのです。年中飾るこの札を見て私はここに住もうかといっしか決めましたが、

実は多くの人前で話すのは苦手なんです

頼まれて講演をすることはあります。さりとて講演は聴くほうが好きです。なんでこんなに惹き付ける話をされるのか、驚きの人もいますから。元来は人見知りの私が、なぜ医師の仕事をしているのか考えてみました。つまりは人の話を聴きたいのです。医学用語では「臨床」が好きということですが。一人の患者さん、その家族という単位で、お互いが向き合える関係ができます。一緒に病気という課題に向き合っなら、つらくても話の実が入ってきます。これなら私にも取り組めると思い、お喋りしつつ、会話は徐々に鍛えてもらいました。この言葉は誰々さんからと、経験は次の方に順送りになります。では、お互い対話の場へ。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御薊町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可